

母塾

2019・4・23

VOI・17



新小岩幼稚園・未就園児クラス

『 初々しい場所へ 』

アドバイザー 猪之鼻晴子

この春、我が家の小学生・中学生・高校生の卒業式があった。
現在、幼稚園・中学生・高校生・専門学校生・大学生・社会人が同居している。
子育てをしているというより、まるで小さなシェアハウスの管理人をしているように
自分で可笑しくなった。

卒業式で大人に見えた小6や中3が新しい制服を着ると幼く見えるのが不思議だ。
緊張した顔でネクタイを直している。

昨年新しい園服で泣いていた末っ子の年少さんも、年中さんになり、今は下駄箱まで
走っていく。「どうして、ママとバイバイしても大丈夫になったの？」と訊いてみると、
「もうお机わかるし。きゅうきゅうしゃマークとあそぶから。」とのこと。
毎日、下駄箱で泣かれた時は「私と離れるのがそんなに悲しいのか。」と胸が締め付けられる
ように思っていたが、今気づいたこともある。あれは私を思う涙ではなく、不安の涙だったのだと。
「生まれた時からずっと一緒に居たママはボクの全てをわかってくれている。」
私のとなりが彼の指定席だった。そこを離れて新しい席に着かなければならない。
見知らぬ人ばかりの中に入っていかなければならない。
新しい自分の居場所が定まらず、不安で泣いていたのだ。
今は新しい自分の指定席を見つけたので、泣かずに遊べるようになったのだ。

大人に見えた大学4年生はリクルートスーツを着ると幼くなる。
新しく入ったレジの人は年配のひとつも初々しい。ひとは新しい場所で生まれ変わっている。
我が物顔で園庭で遊んでいた年長さんは、今頃きっと大きなランドセルを背負っているだろう。
新しい場所へ通う子どもたちはひどく疲れている。生まれ変わるにはエネルギーが要る。
眠ってばかりいたり、八つ当たりすることもある。慣れた場所と人に甘えたいのだ。
母としては「新しい場所に行ったのだから、最初が肝心」と思うが。
中1がグズグズしていても少し目をつぶってあげようかな、と思う。
大人であっても、新しい職場に行った時は「こんなこと絶対私にできない。続かないかも。」
と知り合いの居ない中で泣きたい気持ちになる。みんな不安と緊張の春があるのだ。
「今日は特別に甘いものでも買って待とうかな」と新しい体操着を洗濯をしながら考えている。